



# 水仙植栽事業への協力依頼について！

今年も高寺地区地域づくり協議会では、高寺コミュニティセンター周辺の「景観づくり」の一環として、水仙植栽事業を下記のとおり実施します。

旧片門小学校道路沿いフェンス脇に320球を植栽予定ですので、皆さんのご参加、ご協力をよろしくお願いいたします。

- ・ 日 時：平成29年10月29日（日）  
午前8時30分から
- ・ 集合場所：高寺コミュニティセンター
- ・ 準備物：移植ベラ、軍手等



## 高寺物語 ④ 古川利意様より

高寺山の宝物を探そうと、たくさんの人が山のあちこちを探し回りましたが、しかし誰も宝物を見つけた人はありませんでした。宝物はミツバウツギの下にあるというので、ミツバウツギ、ミツバウツギと尋ね歩きましたが、ミツバウツギさえも見付けた

人はありませんでした。

高寺は、そのあとは昔のようにぎやかさはなくなりました。今から九百年程前になると、高寺山にあった仏像や御堂は、山を下ってあちこちに祭られました。

塔寺の観音様もそのひとつですが、片門の御薬師様も高寺おろしのひとつといえます。

高寺山が火事になって滅びてから二十五年がたった頃、坂上田村麻呂という将軍が高寺山を再び昔のように立派なお寺にしたいといえます。

しかしこの後まもなく、徳一という坊さんが奈良から磐梯山の麓にきて慧日寺というお寺を建てました。慧日寺には僧兵という武士の姿をした坊さんがたくさんいて、高寺山とたびたび争いを起こしました。勝負沢はその時、戦って高寺が負けたあとだといっています。

高寺山のお話は今から千年以上も前のお話です。だからいろいろなお話が残っています。

昔、弘法大師という偉い坊さんが、仏教の教えを広めるため、その中心になる高野山をどこにしたらいいか探して歩いていました。越後の方から会津に入った弘法大師は塩峰峠の上に立っていました。東になだらかな形の良い山がそびえていました。山の上には紫の雲がたなびき、これこそ高野山にするのもっとも良い山だと考えました。高野山にするには、四十九の沢がなければなりません。弘法大師はひとつひとつ、沢の数を数えて歩きました。四十五、四十六、四十七、四十八・・・いくら数えても沢の数は、四十八しかありません。高野山にするにはひとつ足りないのです。仕方なく大師は紀の国に高野山を開きました。本当は高寺山には四十九の沢があったそうですが、天の邪鬼がいたずらして、ひとつの沢を隠していたそうです。 ～ 続く ～

